

令和元年度仙台市若林区まちづくり活動助成事業  
実績報告および質疑応答（質疑まとめ）

《報告の流れ》

1 団体 8 分で発表。1 団体ごとに評価委員による質疑をし、最後に評価委員長から総評を得る。

いきいき六郷運動教室

いきいき六郷運動教室

- Q バラバラになってしまった地元被災者の集まれるところという点で、どのような地区の参加者で会員構成がなされているのか。また今後会員を増やすにあたり、こういった地域、ターゲットを見込んでいるのか。
- A 六郷地区の地元被災者が中心の会員構成である。東六郷コミュニティ・センターの体育館を利用しているので、同じ六郷地区ではあるが、震災後に住めなくなり移転した上飯田地区、沖野地区、今泉地区の方々に声掛けをしていきたいと思っている。仲間内で移転先のコミュニティにうまく馴染めていない方や、高齢者であまり外出しない方に参加を促して少しずつ広げていきたい。
- Q 六郷東部ふるさと交流祭でのステージを見せていただき、激しい振り付けで体操のイメージが変わった。会員の皆様のレベルアップを感じられた。地域の方からも、積極的にイベントに参加しており、一生懸命に活動に取り組んでいるとの声も聞いた。会員を募集する際に、レベルの高い体操に対して、尻込みしてしまう方もいるのではないかと思うがいかがか。
- A 講師の先生が名取市でも介護予防教室を行っている方で、名取の教室のメンバーと交流があった際に、自分たちよりも 10 歳年上の方が体操をしている姿を見て、励ましをもらい一から少しずつ覚えていったら踊っていた。このような経験から、高齢になってもできるということを伝えていきたい。
- Q ステージ発表について、お揃いの素敵な衣装はインパクトがあり、5 つのイベントに参加し、発表されたのは素晴らしい活動だと思った。報告書の中で、外部講師に頼らない事業の運営とあるが、外部の方を通じて、活動の幅が広がることもあるし、専門の方に指導してもらうことで安心して活動が来ている部分もあると思うので、一概に外部講師に頼らない運営が良いとは思わないが、そのあたりはどのようにお考えか。
- A 現在教えていただいている講師の先生のおかげで、ケガもせずに活動を続けることができている。助成金に頼らずに自分たちで運営していくことが理想だとは思っているが、先生無しには発展が難しいところがある。現在は助成金と参加費で運営しているが、助成金が無くなり、参加費が上がったとしても、活動を続けていきたいと会員みんなが思っている。先生の熱意が伝わってくる体操教室なので、少しずつでも会員を増やしていきたい。
- Q まちづくりという観点からすると、たくさんの人に関わっていただいた方が良いと思う。大学生と一緒に活動するという話もあったし、男性の高齢者は引きこもりがちなので、そういった方を勧誘して、男性会員を増やすことについてはどうか。
- A 初期の頃は、男性会員もいたが、徐々に減っていき、現在は女性のみとなっているが、募集はどなたでも思っている。会員へは男性にも声掛けをするようお願いしているところである。

意見 今後、広報をどうしたらいいかという話もあったので、地域包括支援センターなどに協力していただき、引きこもっている男性の方を、体操教室を通じて繋がりができるように働きかけをしていっていただきたい。

#### 第4回心をつなぐ若林シーサイドマラソン

若林シーサイドマラソン実行委員会

Q 事業の目的の中で、若林区沿岸部藤塚地区の震災の経験を風化させないこととあるが、地域を藤塚地区沿岸部から若林区沿岸部にするなど、地域を広げることについてはどう考えているか。

A 最終的な目標は、若林区の沿岸部に関わらず、今後広がっていくであろう名取川から七北田川までの仙台市東部沿岸部集団移転跡地の活用事業について、ランナーの方が若林区をスタートして、その全てを見ることができるようなコースにして沿岸部を盛り上げていければと考えている。

来年度の開催では距離をハーフマラソンまでにコースを伸ばせればと思っていたが、コースの調整が難航しておりハーフマラソンは行いが、10キロのコースを2周することを計画している。

意見 六郷地区だけでなく七郷地区など他の地域も取り込んでいくことで、もっと広がっていくと思う。また小中学生などの子供の部などがあれば、保護者も含めて東部沿岸部にもっと関心が向くと思う。

Q 活用事業が始まることによって今後イベント会場の確保が難しくなっていくことが予想されるが、それについてはどのような検討をしているか。

A そこは課題として認識しており、今回は藤塚地区で約1100台分の駐車場を確保したが、そのうちの半分は深松組が建設予定の複合商業施設にあっており、来年度の開催に向けて代わりとなる駐車場を確保しなくてはならない。課題解決に向けては、去年使えていなかった土地がいくつかあり、復興まちづくり課と調整している他に農業園芸センターの駐車場の利用、荒井駅からのシャトルバスの増便などを検討している。

意見 会場の雰囲気を見ましたが、快晴でランナーの方々にとって思い出深い一日になっただろうと感じたのでぜひ今後も続けていただきたい。若林区のまちづくり活動助成事業という観点から、若林区民の方がどのような形で参加されたかが関心のあるところである。パネル展の展示方法については、風よけでテントに入り眺めていくような方もいたので、パネル展はぜひ続けていきつつ、もう少し広く参加者の方に見ていただける工夫があると良い。

Q 荒町さんぽを拝見して色々な個性なお店があることを知った。商店街のお店から協賛金をいただいたとあるが、荒町商店街振興組合からは協賛金をもらうことはなかったのか。また、今後組合との連携についてどう考えているか。

A 荒町さんぽに掲載しているお店の約半分は組合未加入であり、組合からの費用で荒町さんぽを作ると組合メインのマップとなってしまうので、今回は各店主から協賛金を少しずついただいた形である。今後については、組合の会長にも会議への出席などご協力いただいているので、組合からの協賛金も可能性としてはある。

意見 収入のバランスをみるともう少し地域からの負担があってもいいかとおもう。

Q 素晴らしいマップに仕上がったと思う。編集メンバーはどのように募集したのか。

A フリーペーパー講座をチラシと Facebook で募集して開催し、そのメンバーの中から編集メンバーを募った。講座は先着順で受け付けをしたので、落選した方もいて人気があった。講座に参加したメンバーの中には市外からの方もいた。

Q 商店街の一つとして市民センターが掲げられているが、荒町さんぽの製作にあたって市民センターとはどのような関わりがあったか。

A 今回は取材先として取り上げさせていただいた。市民センターや児童館にはよく顔を出して情報交換をしているが、どこまで頼んでいいものなのか分からない部分もあるので、こういうことやりたいという話の中で次に繋げていければとは思っている。

意見 協力体制が築ければ、決算書内の資料のコピーなど出来る範囲での協力は可能かと思う。

Q 荒町さんぽを通して、街のことについて改めて気づいたことや、新しい発見などはあったか。

A 当初、荒町のことについてあまり詳しくはなかったが、散策してみると様々なお店があることに気づいた。その中で、荒町は麴で栄えてきたことを知り、味噌屋の歴史の深さや酒屋にも通じていることなど、街のつながりが見えてきた。それをきっかけに、荒町の背景にあるものに着目して街を見ていくと街全体の見え方が変わってきたことに気付いた。

意見 荒町さんぽをきっかけに取材をした側だけでなく、取材をされたほうも街に興味関心を持ち、取材された店同士が繋がっていくといった展開になることを願っている。

報告いただいた3団体の皆さまお疲れ様でした。団体の数でみると少し寂しい気もしますが、今年度は3団体の採択となりました。

私も色々な団体と関わりがございますが、助成金の申請というと、申請書や収支予算書などの書類を準備することに対して面倒に感じる方が多くいらっしゃると思います。私も、他の団体で助成金の申請書を書いた経験がありますが、その経験を通して頭の中の考えを文字に起こして人に伝えることは、自分たちの活動を広げるために非常に大切な事だと感じました。

本助成金は市からの助成金なので書類の準備等大変だとは思いますが、ぜひ他の団体にもお声掛けをしていただき、より多くの団体の皆様に若林区のまちづくりを盛り上げていていただきたいなと思います。

市民活動のポイントというのは、人であろうと思っています。どこまでいっても、活動の担い手の発掘はついてまわるものです。もちろん資金を調達することも非常に大きなテーマではありますが、やはり一番大事なのは人です。ですので、多様な人、多様な力をもった人を、いかに自分たちの活動に巻き込んでいくかということが非常に大事なポイントだと思います。その懐が狭いと、参加者が増えていかない、知名度があがらないといったように活動が広がっていきません。

今回の3団体の活動の報告を聞く中で、自分たちの団体にも活用できそうな色々なヒントがあったかと思いますので、ぜひそういったものを生かしていただきながら、これからの活動がますます活発に広がっていきますようにご祈念を申し上げます。